

子育てとコミュニティを両立する奈義町の取り組み - なぎテラス, なぎチャイルドホーム, 仕事スタンドを中心に

NAGI TOWN'S EFFORTS TO BALANCE PARENTING AND COMMUNITY
- Report on efforts centered around Nagi Terrace, Nagi Child Homes and Work Stand

○山田あすか*¹, 村川真紀*²
YAMADA Asuka and MURAKAWA Maki

Nagi Town, Okayama Prefecture, which is developing a community based on Town pride's "Nature, Art and Education (People)" program, is working to enhance its culture and art, child-rearing support, and employment support. For the development of the city, symbiosis, third place and economy are emphasized, and the improvement of their starting points/bases is promoted. Nagi Terrace, Nagi Child Home and Work Stand are also hubs of their community planning networks.

Keywords : Child care support, Community development, Multigenerational communication ,
Employment support

子育て支援, まちづくり, 多世代交流, 就労支援

1. 本稿の概要

タウンプライド「自然・アート・教育(人)」を基にまちづくりを進める岡山県奈義町では、文化・芸術や子育て支援、就労支援を充実させる取り組みを行っている。町の発展のため、共生・第三の居場所・経済を重視し、それらの起点/拠点の整備を進めている。ナギテラス、なぎチャイルドホーム、しごとスタンドは、それらのまちづくりネットワークのハブでもある。本稿は、以下の訪問、並びに公開されている関連情報を元に記述する。

■インタビューでお話を伺った方

森安栄次氏(奈義町 情報企画課参事), 馬場絵理子氏(一般社団法人ビジット奈義 DMO コンシェルジュ), 貝原博子氏(奈義町子育て等支援施設なぎチャイルドホーム子育てアドバイザー), 桑村由和氏(一般社団法人奈義しごとえん)

訪問日: 2022年3月29日

2. 奈義町とまちづくりの概要

1) 奈義町の概要

■気候・風土

岡山県北東部、中国山地に位置する奈義町は、周囲を山々に囲まれた自然豊かな町である¹⁾。年間降水量は比較的多く、町の名の語源でありシンボルでもある「那岐山」の山麓一帯には、おろし風である局地的な暴風「広島風(ひろとかぜ, 日本三大局地風の一つ)」が吹くことがある。古い家屋では家屋の北側に檜, 檜, 榎, 伊吹, 椿, 竹などを防風林「コセ(戸背, 木背などと書かれる)」として植えてこの被害を防いでいる。

■人口動態

総人口は、平成2年(7,577人), 平成7年(7,230人), 平成12年(6,690人), 平成17年(6,475人), 平成22年(6,085人), 平成27(2015)年(5,906人)と減少している。人口増減率は平成7年→12年で最も低く-7.5%であったが、平成22→27年には回復基調で-2.9%となった。子育て支援に力を入れていることで知

*1 東京電機大学未来科学部建築学科 教授・博士(工学)

*1 Professor, Dept. of Architecture, School of Science and Technology for Future Life, Tokyo Denki Univ., Dr.Eng.

*2 東京電機大学未来科学部建築学科 研究員・博士(工学)

*2 Researcher, Dept. of Architecture, School of Science and Technology for Future Life, Tokyo Denki Univ., Dr.Eng.

られ、令和元年には町の統計で過去5年の合計特殊出生率2.95を達成し^{注1)}、全国平均1.36(2019年)を大きく上回っている。これは統計方法による影響を差し引いても、全国トップレベルの数字である。

奈義町は2012年ごろから拡充してきた手厚い子育て支援で知られ、育児用品の貸し出しや子育て支援施設、多子の場合の保育料軽減、ひとり親への交付金の他、独自性の高い施策がこどもを望む時期から中高生の時期の子育てまで切れ目なく設けられている⁷⁾。不妊治療・不育治療助成(奈義町に1年以上住所を有した戸籍上の夫婦、20万・30万/年を限度として5年間の助成)、出産祝い金の交付(第1子10万、第2子15万、第3子20万、第4子30万、第5子以上40万)、予防接種法と法定外の予防ワクチン接種の無償化、在宅育児支援手当(満7カ月から満4歳;満5歳前の3月まで)の児童で保育所・幼稚園・こども園に就園していない児童を養育する者に、月額1万円/児童一人を支給)、こども園の設立^{注2)}、全国に先駆けた高校生までの医療費の無料化(東京都は2023年度から)、高等学校等就学支援(年額9万円/生徒一人当たりを在学中の3年間支給)。さらに、夫婦で居住できる住宅の整備のため、新築住宅への補助や家賃低廉化住宅、定住促進住宅などの住宅政策としての移住・定住促進も行う。

こうした政策の甲斐あってか合計特殊出生率は町の統計で2014年には2.81まで向上したが、この年に日本創世会議が発表した「消滅可能性都市」には奈義町も含まれていた。そこで、消滅可能性都市が指標とする、出産が可能な年齢層の女性の定住・呼び込みの方策などについて多くの町民からの意見を直接集めるなど多面的な検討が行われ、このなかで「仕事」の重要性が浮上した^{4) 7)}。

2) 奈義町のまちづくりについて

■タウンプライド：自然・アート・まちの人々

奈義町では、町の人々からの意見収集なども踏まえ、まちづくりの哲学、原理の方針として「タウンプライド(まちが誇るもの)」を自然・アート・まちの人々と定めた。このタウンプライドを基にまちづくりを進めるにあたって見出された「共生・第三の居場所・経済」をキー概念として、これらが町の将来像に向けた起点と定められている^{2) 4)}。そして、とりわけ人口減少問題を地域社会や経済に大きな影響を与える最重要の課題と捉え、出生、就労・産業創生、関係人口、生活支援において以下の4つの目標を設定している。



図1 奈義町の位置 (Googlemap, 2022)

奈義町は、中国山地、岡山県と鳥取県との県境にあたる岡山県北東部に位置する面積69.54km²、人口5,496人(2022年3月1日推計)の町である。町域の中心を南西は津山市に、北は鳥取市に至る国道53号線(因幡道)が縦断する。町の大半を山林が占め、このうち市の西側に位置する日本原高原は陸上自衛隊の日本原演習場(一部が津山市にかかり、全体で1,450万m²)となっている。また、その管理駐屯地として日本原駐屯地(第13特科隊)が置かれている。「平成の大合併」の折、2002(平成14年)に周囲の市や町との合併はせず独立した町としての存続をいち早く採択した。



写真1 奈義町役場

気候変動への対応、自衛隊との共存共栄、子育て応援の垂れ幕が掲げられ、町の基本的なポリシーがうかがえる。



図2. 奈義のまちづくりの「6つの大切なこと」

文献2、「奈義町まちづくり総合計画、奈義町まち・ひと・しごと創生総合戦略」より引用。

- (1) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- (2) 稼ぐ地域づくりを進め、安心して働けるようにする
- (3) つながり築き、新しいひとの流れをつくる
- (4) ひとが集い、豊かで安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる

特に(1)において合計特殊出生率2.3を維持できれば2050(令和37)年頃までの人口減少(5,000人程度)をほぼ維持できる推計となっており、この数字が目標となっている。人口流出を防ぐためにも、仕事(若い世代の就労)、子育て、交流が、町が支援/解決すべき課題として認識されている。

■広域での連携：津山圏域定住自立圏共生ビジョン

奈義町は、津山市が中心となって平成29年3月に策定した津山圏域定住自立圏共生ビジョン³⁾、^{注3)}に参加しており、機能の相互連携を進めている。この協定では、「人口減少に歯止めをかけるダムとしての圏域の形成」に主眼を置いており、以下の将来像を掲げている。

- (1) 医療・福祉・子育てなど、暮らしに直結したサービスの充実による、住み慣れた地域での住み続け支援
- (2) 特産物のブランド力の強化や域外への販売拡大、製品の高付加価値化など、産業振興や仕事の創出による経済圏としての自立的発展
- (3) ツーリズムの促進や情報発信による圏域内外の交流・移住促進
- (4) 圏域インフラ等のネットワークの充実による圏域内の結びつきの強化
- (5) 地域を支える人材の確保・育成

こうした広域連携で、例えば「まちなか子育て支援拠点事業」では、奈義町住民も津山市の子育て支援拠点事業施設を使うこともできる。その他、障害者支援や要配慮児童への教育、産業振興・雇用に係る地域内就業推進等でも連携事業が設定されている。

3. 奈義町多世代交流広場ナギテラス

農業を支えるコモンズであった溜め池と、まちの滞留・交流の拠点をつなぐ

1) ナギテラスの概要

構造・規模：木造，一部鉄骨造 地上2階

敷地面積：1959.84m²

建築面積：273.62m² (*屋外空間を除く)

延床面積：323.04m² (*屋外空間を除く)

竣工：2019年

設計：Eureka / 稲垣淳哉, 佐野哲史, 永井拓生, 堀英祐
 企画：一般社団法人ナギカラ (町が指定する地域再生推進法人)

ランドデザイン統括：熊本大学景観デザイン研究室 / 星野裕司

土木景観：Tetor / 山田裕貴

色彩アドバイザー：CLIMAT (環境色彩計画事務所) / 加藤幸枝

設備：長谷川設備計画

家具：スケール

サイン計画：ランドデザイン / 浪本浩一

植栽計画：清右衛門

施工：森安建設

含まれるスペース：観光案内所 (施設の管理運営を兼ねる。施設全体の所管は産業振興課)、バス待合所、フリースペース、交流スペース、イベント・展示スペース (アート作品の展示など。アーティストインレジデンス



写真2 ナギテラスを西側(ロータリー側)から見る
 緩やかな屋根の連なりは、周囲の山並みとの調和を意識したデザインであると説明されている。



写真3 ナギテラス2階から見る「みんなの庭」と、セコに守られた住宅という地域景観
 「みんなの庭」は、子どもや若年者を含む地域の滞在と交流の場所として使われている。防風植栽帯「セコ」のむこうには、当地域ならではの景観が見られる。

とも連携している), 多目的スペース, 屋外交流広場 (みんなの広場)

*レンタルスペース事業として, 専有面積と設備に応じた金額を設定しており, 事前に利用申請することで, 打ち合わせやイベント, サテライトオフィス, スタートアップ準備などの用途に貸し出している。

開所時間: 9:00 ~ 17:00 (レンタルスペース利用の場合は 21:00 まで)。バス待合所は, バス便のある時間帯の前後 15 分で, 6:45 ~ 21:00。

2) 開設経緯

町役場の前, 国道 53 号線を挟んで経営していた飲食店が廃業することとなった。町の中心地であり, 町の顔になる場所でもあることから, そこが朽ちるに任せるよりも, 町がこの場所を買い上げて整備することとなった。奈義町には高校がなく, 高校生はバスに乗って隣接する津山市市街の高校に通う。そこで, 町のターミナルの機能としても充実するよう, 高校生を含めて多世代がちょっと寄れる/滞留できる場所として, また町の情報発信を行う観光案内所, 小商いができる場所として整備された。この「小商い」のための場所は, 町内での起業サポートの位置づけを担っている。

3) 建築の特徴

古くから平地が農業用に整えられてきた奈義町には, 多くの農業用溜め池がある。当敷地の隣, 町役場の前にあたる「市場池」もその一つである。タウンプライド・ランドデザインの策定のための町民ワークショップでは, 50 年前の奈義町の様子を調べるため, 古地図や風景写真が集められた。これらの資料はいま, ナギテラスに飾られている。歴史・風土に根ざしたまちの固有性,

文化をいかに尊重し未来につなげていけるかは, その町がそこに・そのように在ることの理由そのものである。

このリサーチをもとに, ナギテラスが隣接する「溜め池」を, 地域コミュニティが共同で行う農業のための共同財産 (コモンズ) であると改めて位置づけ, 溜め池を景観要素として積極的に取り入れ, 溜め池に沿わせるように分棟を配置して, 溜め池の周囲を散策できるルートに接続するよう, また周囲の散策路とのネットワークを重視した配置と動線が計画された。地域の風土・歴史と生活景, そして土木景観と建築, そして人々の活動をつなぐ計画がなされたことは本プロジェクトの特徴である。半屋外がつなぐ屋内外の空間に人々が滞在し, 溜め池や田畑と家々, その周囲の植栽や遠景の山並みが一つに溶け合う地域の日常風景を, まちのシンボルとなる「ランドスケープ」としてデザインされている。

「みんなの庭」の植栽は, まちに自生する草花を調査して, 住民参加ワークショップで植えた。コセのある風景になじむよう, また植栽が庭のながめを疎外することがないように, 密度が考えられている。

4) 使われ方と波及効果

Wi-Fi 環境があり, 無料で自由に滞在できるため, こどもたちが勉強やゲームなどの遊びの場所に使っている。高校生のちょっとした滞留の場にもなっている。高齢者がグランドゴルフが終わった後にお茶のみをしていたり, 男性たちが集まってお酒を飲んだりしている, 飲食自由なスペースである。

テナントとしても使えるスペースの貸し出しは, 使用料を定めて貸し出している。テナントスペースでの期間の準備を経て, 町内で開業した例もあり, 町のスパー

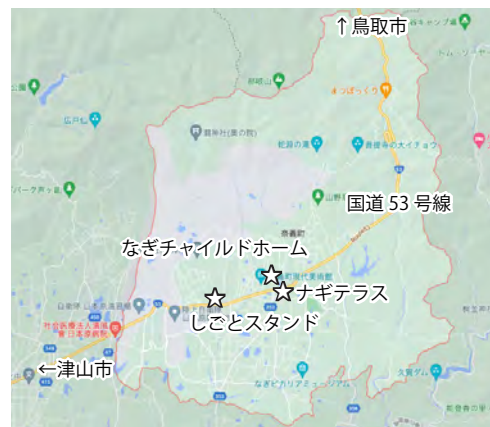


図3. 奈義町役場付近 (右, Googlemap, 2022)

図4. 3施設の位置 (上, Googlemap, 2022)

町の幹線道路である国道 53 号線沿い, 町内可住地域の中央に, 町役場, 文化センター, 奈義町現代美術館 (MOCA), 郵便局, スーパーなどが集まっている。

スという公的な位置づけのもとで事業の準備や試行ができることは移住者や起業のゲートとしても寄与している。COVID-19 禍によるオンライン、遠隔就労の急速な普及は、それ以前からも増えていた多拠点居住や遠隔就労の強力な後押しとなった。こうした社会的な変化を、町への移住・定住の流れにどう取り込むかが課題であり、チャンスでもある。地方都市はどうしても閉鎖的になりがちな側面がある。しかし、奈義町には自衛隊の演習場

が立地している関係で、自衛官が2～3年で転勤していくことに合わせて、全国から任官された人々が比較的短期間で入れ替わっていくことで、常に多様な文化が混ざり合う状況がある。適度に混ざることができていることは、町の雰囲気のマンネリ化を防ぐ効果があると認識しているが、一方で、赴任してきた自衛官の家族は定職に就きにくかったり（これは後述するしごとえんの活動につながる）、子どもたちが転入・転出を繰り返すので友



図5. ナギテラス配置図(上) 図6. ナギテラスフロアマップ(下)
いずれも、奈義町 HP サイト⁵⁾より引用。

達関係づくりには配慮が必要という面もある。「ココに来れば誰かがいる、何らかの関係を持てる」ということには、そうした流動的コミュニティを内包していることへの目配せもあるように思われる。

ナギテラスで行われていたチャレンジ講座をきっかけにバザー（マルシェ）が行われるようになったが、こうした出来事は、主催者となった「お母さん」たちやその家族、町の人々にとっても起業やイベント企画による地域活動の契機として重要な一里塚である。自由に集まれる場所、そして活動のきっかけになる刺激が企画・実施できる場所が生まれたことで、連鎖的に多様な活動が生じている。それこそがこのナギテラスの価値であり、ここがまちづくりの起点であると認識され、積極的に位置づけられている所以である。

人口減少を緩和するには、子どもや若者、母親となる人たちに選ばれる町にならなければならない。安心して産める環境である（経済的支援だけではなく、人手のサポートがあり産めばそのあとはなんとかなる、と思える）ことはその一つである。子育て支援は口コミでもひろがっており、就労先が別の町でも、自宅はここにと移

住してくる若年家族もいる。また、町には高校がないため、高校生になると隣町に通うようになり地元で過ごす



写真6, 7 溜め池土手上的の道からのつながり

左：みんなの庭につながる階段、右：2階のフリースペース（写真右側）とテナントスペース（写真左側）へつながる幅広の斜路



写真8 2階のフリースペース側から階段方向を見る

2階は3棟の分棟形式で、内部は半屋外空間を介して分節された空間構成となっている。



写真4 道路（町役場）側から見たナギテラス

写真左側が溜め池の土手、右側がバスロータリー。手前の道が町のメインストリート



写真5 ナギテラスから町役場を臨む

溜め池に沿うように土手が続く。写真右奥が町役場。



写真9, 10 バスロータリー側からのつながり

バスロータリー側から斜路アプローチを登り切ると、2階の半屋外空間を通り抜けて溜め池の土手上的の道につながる。

時間も少なくなる。中学生までの期間に関係がつくれる場所、また高校生が交通結節点ともなる場所に居場所をもつこと（どこの高校に行っても集まれる場所）、こうした、中高生までの間にまちへの愛着を育てることも重要である。そのためにおしゃれで機能的なハードとソフト的なつながりが重要であると、町の企画課（仕掛けを担当する課）は認識している。「しゃれた建物／空間がある」ということ自体が、まちへのシビックプライドにもつながり、Instagram など SNS の口コミで【映える】景観であることで対外的な広告効果もある、重要な側面をもっている。

まずはフラットに、誰でもそこに「居る」ことができる場所、「関わる」ことができる場所があることが、まちの活性化やまちの住民の活動の起点となるという認識やその実践は大変示唆深い。

5) 関連する事業展開の沿革

以下に、関連する事業の沿革を整理する。

2007 年 統合再編で空いた保育所の改装により、子育て等支援施設「なぎチャイルドホーム」開設。奈義町の子育て支援事業として 2004 年より活動していた「子育てサポート スマイル」が合流、一時預かり「すまいる」事業を現在まで継続。

2015 年 第 1 期奈義町まち・ひと・しごと創生総合戦

略策定：1000 名の町民と中高生全員へのアンケート、町内の様々なグループや団体へのインタビューの結果をもとに、19 名の町民がワークショップ形式で素案を作成。町内の各種団体を中心に構成される審議会での議論を経て、議会承認を得て策定された。

2016 年～2017 年 「子育てサポート スマイル」が、自主保育「たけの子」、町内の短時間ワーキングシェア「ママワーク」事業を試行。「ママワーク」は、「しご



写真 11 2 階フリースペースの階段方向を見る
可動の机や椅子がそのときどきの利用者／滞在者によって場を組み立てる材料となる。階段には収集された風景写真が飾られている。* 50 年前の奈義町の様子をリサーチし、さらに 50 年後の奈義町の将来像が構想され、そのために必要な取り組みが町内各地に展開する様子が示されている。

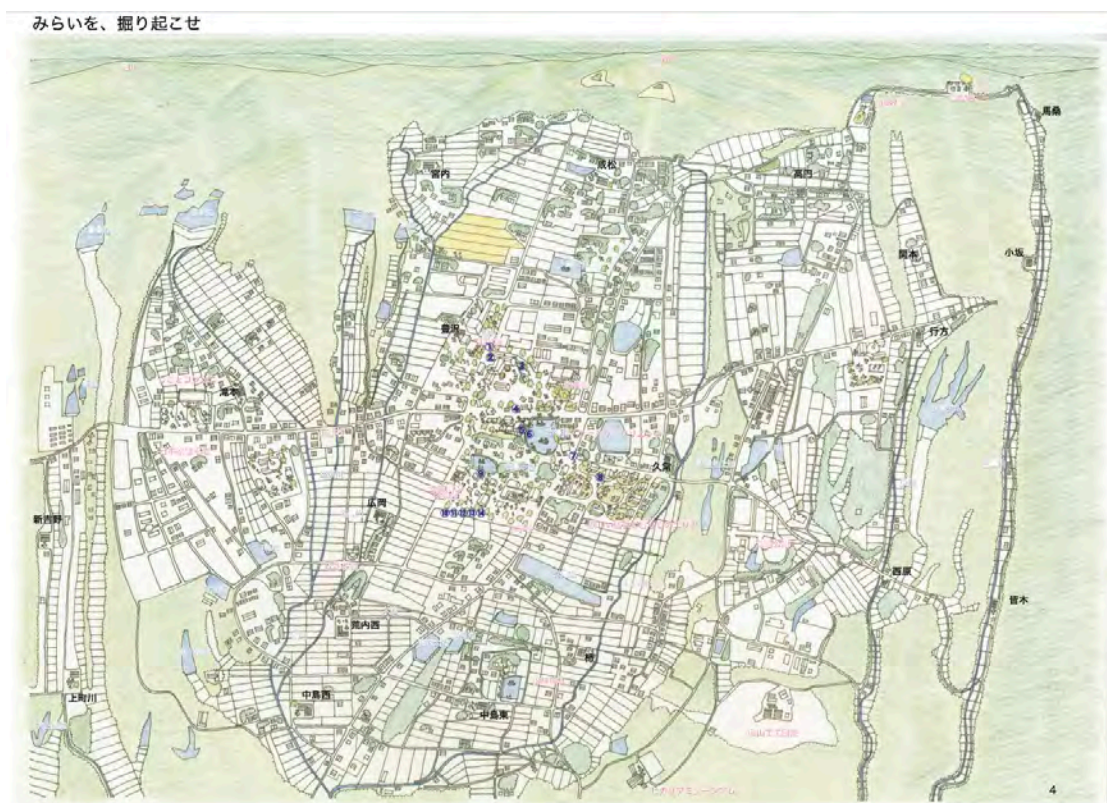


図 7 奈義町、タウンプライド・グランドデザイン（素案）

<https://www.town.nagi.okayama.jp/gyousei/hotnews/documents/1.pdf> より引用

とコンビニ」事業との連携に置き換わる。自主保育事業は、平成 29 年度美作国創生公募提案事業、平成 30 年地方創生事業費、令和元年より奈義町からの事業運営費を得て継続。

2016 年 11 月 「タウンプライド（まちの誇り）」「グランドデザイン（まちの未来のイメージ図）」の素案策



写真 12 2階フリースペースの様子
事前の予約で貸し切りやイベント等でも使用できる。写真奥、半屋外のデッキを介した棟がテナントスペース。右奥が「みんなの広場」



写真 13 なぎチャイルドホーム外観
経年で落ち着いた色の屋根に外観に施されたビタミンカラーがアクセントになり、落ち着きつつもにぎやかになりすぎない外観。



写真 14 なぎチャイルドホーム廊下
自然光が豊かに入り、ゆとりある幅員の廊下には、ハンドメイド作品販売のテーブルや、作品の掲示、中古の子供服や靴などを格安で譲るコーナーなどが展開され、にぎやかさを演出している。

定（一般社団法人 つながる地域づくり研究所、熊本大学 景観デザイン研究室／星野裕司氏、株式会社 Tetor, 建築設計事務所 Eureka), 図 7

2017 年 1 月 26 日 奈義町タウンプライド・グランドデザイン(素案)町民説明会開催

2017 年 1 月～2017 年 8 月 ナギテラス設計期間

2017 年 9 月～2018 年 3 月 ナギテラス施工期間

2017 年 4 月 7 日 しごとスタンド開設

2019 年 2 月 時間トレード(ピアサポート)制の仕事
中のこども見守りの仕組み「こもりん」開始

2019 年 しごとコンビニ事業を、「一般社団法人 奈義しごとえん」が引き継ぎ

4. 奈義町子育て等支援施設 なぎチャイルドホーム 閉園した保育所園舎と敷地を活用した子育て支援施設

1) 開設経緯

町内には 6 つの保育所・幼稚園があったが、1 幼稚園の閉園に伴い、そちらに道路向かいの保育所が移転することとなった。保育所園舎が 1 棟空くこととなった



写真 15 なぎチャイルドホーム子育て支援室①
大きな開口部からはこどもが外で遊ぶ様子が見守れる。小上がりと椅子座の仕器が設えられ、子連れでの滞在に柔軟に対応可能。



写真 16 なぎチャイルドホーム子育て支援室②
遊びの空間が仕器で緩やかに区切られているため、複数の遊びを同時に展開できる。天井からのドレープが天井高を適度に抑え、こどもが安心して遊べる環境が整えられている。

ことを契機に、2007年、この建物に若干の改修を加えて「なぎチャイルドホーム」がつけられた。運営者には、奈義町の子育て支援事業として2004年より活動していた「子育てサポート スマイル」が選定され、公設民営の形態を採っている。

なぎチャイルドホームは、“子どもと大人が世代を越えて、交流できる”場として位置づけられており、子どもだけの施設としてではなく、また利用者親子だけの場所として閉じるのではなく、多世代の出会いやふれあい、育ち合いの場であることがコンセプトとなっている。

2) 建物の特徴

保育所園舎がほぼそのまま使われており、1階が主たる活動のスペース、2階は自主事業や子育て関連事業の企画・運営のスペース（オフィスおよび集会スペース）として使われている。主たる活動空間の他に、期間や目的を設定しながら活用できる余裕の空間をもつことが活動の発展や挑戦に寄与している。

3) 使われ方

主な事業に「つどいの広場」事業があり、これは”誰でも、いつでも、これる場所で、子育ての悩みなどが相談できたり地域の情報が集まる場所”という、子育て支援のための【拠点】性が基調である点の特徴である。

5. 一般社団法人 奈義しごとえん しごとスタンド

1) 開設経緯と事業の特徴

上記4. に示した関連事業からの展開により、元ガソリンスタンドの改修によって開設し、現在は運営主体を変えている就労支援サービス事業所。子連れでも働ける場所、子育てしながらという（こどもの体調不良等で急遽時間の都合が付かなくなることがある時期でも継続的に／自分のペースで仕事ができる就労の仕組みとしてつくられた。これは、転勤族の帯同家族として1～2年で生活場所が変わるような状況であっても都合をつけながら仕事を続けたいニーズにも対応する。

2) 建物の特徴

ガソリンスタンドの改修によるため、車で寄りつきやすいことは特徴で、開設時には目を引く改修例としてマスキの取材も多数あった。建物内は低い仕切りでゾーニングされており、子どもが遊ぶ様子を見ながら作業をすることができるワークスペース、事務局のスペース、打ち合わせのスペースがワンルームのなかに置かれている。

6. まとめ

ワークライフバランスは、ライフステージにおいて、変化する。こどもが生まれる、チャイルドホームで関わる、仕事スタンド、仕事にフルに戻る、のライフサイクルでの仕事との距離感を調整しながら働き続けることが出来る。それは自己実現の機会やスキルアップ、またこどもとのそれぞれ適切な距離感のコントロールにも寄



写真 17 しごとスタンド外観

ガソリンスタンドの面影を残す大きな庇は道沿にも目を引く存在である。白い外観と黄色いメモの形のサインが印象的な外観。



写真 18 しごとスタンド内部全景を臨む

仕切りの高さは、子供が遊ぶ姿を見ながら作業ができる座って視界が通る高さの仕切りや集中して作業に取り組める少し高い仕切りで区切られたスペースなど、ニーズに応じて作業場所を選べる。



写真 19 ワークスペース内を臨む

木製の仕切りと外部からの自然光により、明るく開放的なワークスペースが設えられている。

与する。こうした支援により、こどもの居る世帯の半分くらいが3人以上のこどもを育てている。その希望がある人にとって、「複数人のこどもをもち、育てることができる」「もう一人産もうと思える」まちであることが目指されている。

奈義町での取り組みについて、そのはじまりと発展の経緯や内容をみると、「ひとつながり（一つながり／人つながり）」であることが特徴であり魅力であると言える。子育て支援における、こどもを望む時期から乳幼児期、就学期までの一つながりの支援。子育て、就労（仕事）、交流という生活の一つながりのあり方を包括的にケアすること、それぞれの拠点をもち、それがネットワークされること。拠点が新たな活動を生み、その活動がまた別の活動や人をつくっていくこと、その連鎖的な展開が好循環となっている。事業をつくるに際しては、町内の「人」の取り組みや意見を発掘し、育て、それを町外の専門家や奈義町で挑戦・実験をしたい「人」々を招き入れ、巻き込み、プロジェクトをつくり、発展させていく。その過程の中に出会いもあれば、別れてそれぞれに発展していくこともある。すべてを抱え込み、町内で完結させるわけでもない。こうした、町内外に、他の社会課題や資源に、またライフステージの変化に「開かれた」かつ「包括的な」仕組みづくりが総じて町に暮らすこと、暮らし続けることを誘発している様子を理解することができる。

注釈

注1) 厚生労働省統計（平成25年～平成29年人口動態保健所・市区町村別統計の概況、<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/other/hoken19/index.html>、及び<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/other/hoken19/dl/2-3P.pdf>）では奈義町は合計特殊出生率の高い自治体としてピックアップされていない。厚生労働省等計は小地域での母集団規模の小ささから観測データが急激に上下することを避けるために、当該市区町村を含むより広い地域での動向を反映するペイズ推計（<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/other/hoken19/dl/sankou.pdf>）を用いているため、市区町村単体での特殊な状況は反映されにくい事情がある。

注2) 妊娠・出産・育児で保護者の就労状況が比較的短期間に変化することで「保育を必要とする状況」が変わり、それによって就園条件が変化することが保育所等就園に影響することがないよう、こども園の開設も進んでいる（2022年度から2カ年で整備、既存の保育所と幼稚園3園の統合再編による）。

注3) 津山圏域定住自立圏共生ビジョンの目的（参考文献3より抜粋）「定住自立圏とは、各自治体自らのまちづくり・地域づくりに加え、国の定める定住自立圏構想推進要綱の趣旨に基づき、中心市と近隣自治体の間で、それぞれの意思による協定の締結によって形成

する圏域です。そして、中心市においては圏域全体の暮らしに必要な都市機能を集約的に整備するとともに、近隣市町村においては必要な生活機能を確認し、農林水産業の振興や豊かな自然環境の保全を図るなど、それぞれの役割分担と有機的な連携・協力のもとで圏域全体の活性化と魅力向上を図ることによって、圏域からの人口流出を食い止めるとともに、人の流れを創出するものです。 *下線は筆者

参考文献

- 1) 奈義町 HP, 町政, <https://www.town.nagi.okayama.jp/gyousei/chousei/shoukai/index.html>, 参考 2022.04.08
- 2) 奈義町まちづくり総合計画, 奈義町まち・ひと・しごと創生総合戦略, <https://www.town.nagi.okayama.jp/gyousei/chousei/houshin/keikaku/documents/machidukurisougoukeikakugaiyou.pdf>, 参考 2022.04.08
- 3) 津山圏域定住自立圏共生ビジョン (R3年3月改訂版), 津山市, <https://www.city.tsuyama.lg.jp/common/photo/free/files/10602/202104011038570547001.pdf>, 参考 2022.04.08
- 4) 一般社団法人ナギカラ, <http://nagikara.jp/about/>, 参照 2022.04.08
- *一般社団法人ナギカラは、2015（平成27）年に策定された「第1期奈義町まち・ひと・しごと総合戦略」および「まちづくり総合計画」の策定支援に携わった民間シンクタンク「一般社団法人 つながる地域づくり研究所」が設立した法人で、町が指定する地域再生推進法人⁷⁾。2019年5月末に終了した「まちの人事部事業（株式会社はたらこらぼ商標登録）」を運営していた団体で（奈義町での「しごとコンビニ」事業のサポート期間は2016年10月～2019年3月）、しごとコンビニは現在は北海道東川町（2019年7月～）、鳥取県南部町（2021年～）へ展開している⁶⁾。
- 5) 奈義町, 公共施設情報, 多世代交流広場ナギテラス, https://www.town.nagi.okayama.jp/gyousei/koukyou_shisetsu/nagiterrace.html, 参照 2022.04.08
- 6) しごとコンビニ, <https://shigoto-conveni.jp>, 参照 2022.04.09
- 7) 新・公民連携最前線 PPP まちづくり, 第9回 岡山県奈義町――出生率2.81の“奇跡の町”、“子育て支援策”の一步先へ 住民同士の交流と行政施策が好循環、「核は常に民」のまちづくり（山田真弓＝ライター）, 2018.03.30, <https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/PPP/030700028/031600014/?P=3>, 参照 2022.04.09
- 8) 奈義町, まちのホットニュース, 2017年2月7日付け, <https://www.town.nagi.okayama.jp/gyousei/hotnews/townpridegranddesign.html>, 参照 2022.04.09
- 9) 日本一小さな仮想自治体, 「まちの人事部」が“しごとスタンド”始めます。～みらいを掘り起こせ 岡山県奈義町～, 2017年5月10日付け, <https://kjt-jg.d1-law.com/2017/05/>「まちの人事部」がしごとスタンド始めます/, 参照 2022.04.09
- 10) ナギカラ, 子どもの見守り「こもりん」スタート!, 2019.2.8付け, <http://nagikara.jp/2019/02/>子どもの見守り「こもりん」スタート!, 参照 2022.04.09
- 11) 子育てサポートスマイル, <http://nagi-smile.com/activity/>, 参照 2022.04.09
- 12) 奈義しごとえん, <https://nagishigotoen.jp>, 参照 2022.04.09